

思いやりの心を育てる英語に

水沢 敏寛

「昔からそうになっている、規則にそうになっている、辞書によるとそうになっている」と言う、納得する日本人が多い。「なぜそうになっているのか、なぜそんな規則があるのか、なぜ辞書にそう書いてあるのか」と問いかける日本人は、少ないようである。英語を勉強する人は、「なっている」から「なぜ、なっているのか」を、いつも、自分自身に問い続けなければならない。日本人は、「なっている民族」かもしれないが、英米人は、「なぜ民族」だからである。いつも、「なぜ」と問いかけ、理解しようとする知的好奇心をもてば、想像力が豊かになり、多面的な見解を生みだしてくれる。これが他人への思いやりにもつながってくる。この豊かな想像力を身につけさせるために、辞書を利用して、教師がan intermediary role playerになる必要がある。

例えば、lemon「レモン 欠陥車(品) 魅力のない女性」レモン=欠陥車 が成立するためには、どんなふうにかえたらよいか。柑橘類の果物は、「あまい」という先入観があつてかじると、「すっぱい」、したがって、期待を裏切るものというイメージをもつ。The Oxford English Reference Dictionaryによると、colloq. a person or thing regarded as feeble, or unsatisfactory or disappointing とある。日本人のレモンがもつ「さわやかさ」というイメージはない。an intermediary role playerとしての教師が、このような辞書指導をすれば、生徒の知的好奇心を刺激することになる。そして、英米人の物の見方、考え方が日本人のそれと違うことを理解することになり、豊かな想像力への一助となろう。

1) 動詞の単語を利用する

ア) leaveを辞書でひくと、「去る、出発する、退学する、やめる、置き忘れる、残す、置いていく、そのままにしておく」などの意味が書いてある。英

語1つの単語なのに、日本語の意味がたくさん書いてある。「去る」ということは、ある場所から立ち去る、つまり、「ある場所から出発する」ことだ。出発するとき、時間がなければ、机の上のものをきちんとする時間がなければ、「そのままにしておく」仕事も完了できないから「残す」。

イ) bear 子供を「産む」のに、お腹に「運ぶ」体裁が悪いが「我慢する」→「熊が子を産み、その子を運ぶ、重いけれど我慢する」

ウ) want「欲しがる」なぜ欲しがるのか「必要だから、手元にないから」→「必要とする、不足する、欠けている」

練習 次の「A = B」が成立するために、どんな場面を想像し、どんなふうにかえたらよいか。

1) stand「立つ=我慢する」 a jam-packed train を想像させる。(座りたいが、席がない)だから、(立って)「我慢する」

2) help「助ける=抑える」 階上から飛び降り自殺をする人の命を(助ける)には、その人の体を「抑える」

I couldn't help laughing at the sight. も「その光景を見て思わず笑ってしまった。(笑うことを抑えることができなかった)」

I can't help it. It can't be helped. 「しかたないよ」なぜ、このような日本語訳になるのかが、理解できよう。

3) observe「観察する=守る」 交通事故の現場を(観察する)と、やはり、交通規則を「守る」ことが大切だと、周りの人が「述べる」。

4) succeed「成功する=相続する」 富を手に入れることが、(成功する)ことなら、親の財産を(相続する)のが近道。

その他、群動詞を理解しやすく、覚えやすくする

こつ。

まず, up, out を考えさせ, いろいろ, 想像させて, 「完全に」の意味を身につける。

up → 「上へ, 前へ」進むことができるのは, 現在の状態を「完全に」終了した人に許される。1年生の課程を「完全に」終わると, 「上へ」上級学年に進む。

out → 「外へ, 外に」行くことができる人は, 家のなかを「完全に」終えた人。宿題, 家の手伝いなど。

このことから give up, pull up, hang up は, それぞれ「与える + up = あきらめる」, 「引っ張る + up = 止める」, 「掛ける + up = 電話をきる」と考えることができる。

- ・ give up 自分の持っている金を「完全に」与えれば, ゼロ円になるから, 何か買うことも「あきらめる, 断念する」よりない。
- ・ pull up 車に乗った前の時代には, 馬に乗っていた。馬のたずなを「上へ」引っ張ると, 馬は, 「止まる」
- ・ hang up 電話は, 昔, 柱等にかけてあった。受話器を「完全に」かけると, 電話を「きる」
speak up, make up one's mind も容易に意味が想像できるようになるう。
- ・ make out 今, 何を作っているかわからなくても, 「完全に」作ってから見せられれば, 「わかる」 「理解する」
- ・ carry out 計画などを「完全に」運べば, 計画を実行し, 「成し遂げる」ことにつながる。
- ・ stand out みんなが一列に並んでいるのに, 一人だけが列の「外に」立てば, 「目立つ, 際立つ」ことになる。
- ・ look out よく見ていないから, 「完全に見る」 「気をつける」 アブナイ (Have an eye!)

練習

なぜ, put up at ~ 「~に泊まる」 put up with ~ 「~に我慢する」 run out of ~ 「~がなくなる」になるか。どんなことを想像し, 考えたらよいか。

- ・ put up at ~ 「ある場所の上に置く」 昔の inn の名残からホテルでは, 1階には泊まる場所はない。「自分の身を2階以上に置く」
- ・ put up with ~ 「~といっしょに泊まる」 修学旅行で1室に10人も泊まったことを想像させる。翌日まで「我慢する」ことになる。
- ・ run out of ~ 「~から走る」 英語を話す人々は,

日本人のように, 灰色, 玉虫色, など, ぼかしたり, はっきり言わないあいまいさを好まない。黒か白か, YesかNoか, HaveかHave-notsを明瞭に表現することを好む。したがって, この世は「有」か「無」かの世界だ。「時間が有るところから, ぐずぐずしないで走りできれば, 時間の無いところに行く」「~が無くなる」ことになる。

2) 名詞の単語を利用する

ア) order 「命令 = 順序, 整理, 秩序, 注文」 「番号順に並べ, かたづけろ, やかましいから静かにしろ, 金を払うから品物をもってきてくれ」と「命令」する。

イ) interest 「興味 = 利益, 利害関係, 利息」 何に一番興味関心があるか。「もうかること」 → 利益 「もうかることと損すること」 → 利害関係 銀行にお金を預金したら, 興味関心は → 利息

ウ) head 「頭 = 泡 = コインの表」 頭は体の一番上にある。グラスにビールをつぐと, 一番上はあわ。コインの表には大統領などの頭部がある。

練習 次の「A = B」が成立するために, どんな場面を想像し, どんなふうと考えたらよいか。

- 1) gift 「贈り物 = 才能」 神が全ての人に, 産まれるとき(才能)という(贈り物)をする。
- 2) change 「変化 = 小銭, つり銭」 紙のお札が, コインの(小銭)に(変化)。
- 3) top 「頂上 = ふた = 表(野球の9回の表)」 (一番上)にあるのが, 容器の(ふた) 野球場のスコアの掲示(上)が表, (下)が裏(bottom)。

このような練習によって, ある語句を単に暗記するのではなく, 想像したりして考えを推し進めていくようになるう。

Why not (do) ~?, Why don't you (do) ~?
「~したらどうか」

英語と日本語のはざまの意味を手助けしてやる。
なぜ~しないのか(しない理由がなければ) 「~したらどうなの」

How about (doing) ~?, What about (doing) ~?
も How do you like about (doing) ~?, What do you think about (doing) ~?, How come S V?
も How does it come S V? にも言及することになる。

make believe 「ふりをする」 make people believe 「人々を信じさせる」には「ふりをする」。

- ・That'll be the day. 「まさか. そんなことは信じられない. もし本当にそうならびっくりするなあ」これも That will be the last day (of the earth). とすると合点がいく。

冠詞の the に注意させる. the time (今の時間), the teacher (自分の担任の先生), the doctor (家のかかりつけの医者), Do you have time? 暇があるか. Do you have the time? 今の時間をもっている(知っている)か. 今, 何時.

- ・have the time of one's life 「この上なく楽しく過ごす」
- ・make a person's day 「人を大喜びさせる」
make a person's (happy) day 考え方 my day となっていたら, 「私の誕生日, 私の結婚記念日, 私の入学式」など, うれしい日, 喜ばしい日になる。
- ・be dressed up to the nines 「申し分なくスマートに着こなしている」 9は1の位の数で「最高」だから. これから on cloud nine 「天にも昇った気持ちで」も理解できる。
- ・quite a few ~, quite a little ~ は, なぜ「かなり多数の」「かなり多量の」という意味になるのだろうか.
イギリス人の好む understatement から説明でき

よう. not bad → rather good 日本人と同じように, たくさんあっても, 「ほんのお1つですが」, すばらしいものでも, 「つまらないものですが」という表現から理解させることができるだろう。

Quite a few, a good few, and not a few are expressions used to say that you are referring to quite a lot of things or people, but not an unusually large number. (COBUILD E.L.D.)

付 記

「おつかれさまでした」を You must be tired. と言うと, 思いやりや同情を表すことにならない. それどころか, 相手が女性なら「あなたは若くない」という意味にとられかねない. 「疲れているに違いない」は, 現在の事実を述べている. そう推察できるのは, 顔の疲れの表情が出ている. 体力, 気力が衰退している, ということになる。

例えば, 「ロンドンからの長い旅, おつかれさまでした」を私は You look very energetic in spite of a long trip from London. と言うことにしている. 言外の意味 [connotation] を重視していくことが, 多面的な見解をもつようになり, 想像力も豊かになり, 思いやりの心を育てることにつながる。

(元 新潟県立新潟南高等学校教諭)